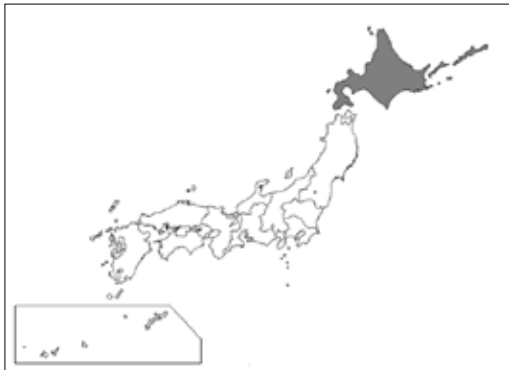


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は回復の動きに弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年11月)	今回(平成29年2月)	
景況判断	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	回復の動きに弱さ	
個人消費	緩やかに増加	おおむね横ばい	

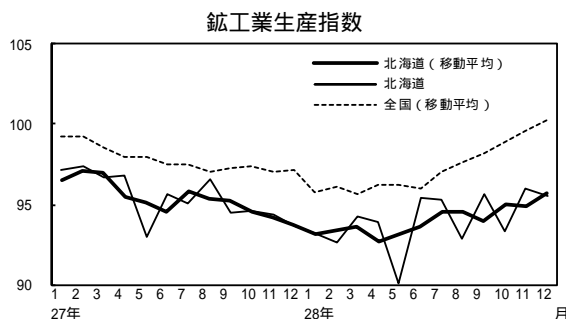
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は生乳生産、水産業の水揚量ともに前年を下回っている。

10~12月期には、生乳生産は総量では947,050tと前年比1.3%減となり、乳製品向けが減少した。水産物の水揚量(主要8港)は、するめいか等が減少したため、前年比50.1%減となった。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

10~12月期には、食料品は、在庫調整によりビール、発泡酒等が減少し、生乳生産量の減少によりチーズ、練粉乳等が減少した。パルプ・紙は、定期修理等による前期の生産減少の反動等から増加した。電気機械は、新製品向けの増産はあったものの減少した。鉄鋼は、定期修理等による前期の生産減少の反動等から増加した。輸送機械は、好調な北米向け輸出等を背景に自動車駆動伝導装置等が増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7~9 月期	10~12 月期	10月	11月	12月
食料品	24.2	0.2	2.6	3.2	0.2	0.5
パルプ・紙	11.9	4.5	2.7	2.9	0.1	1.2
電気機械	11.7	11.6	1.6	7.1	8.0	1.8
鉄鋼	7.5	6.0	2.6	2.5	1.9	1.9
輸送機械	7.0	3.7	6.3	0.7	11.0	3.2
鉱工業	100.0	1.6	0.3	2.4	2.9	0.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種

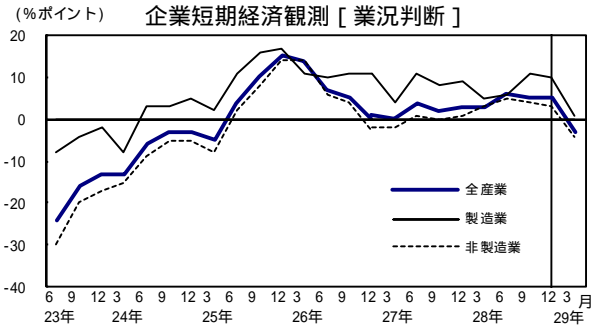
2. 10~12月期、12月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。

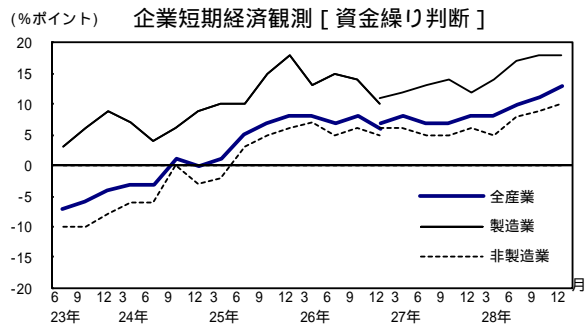
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(3) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

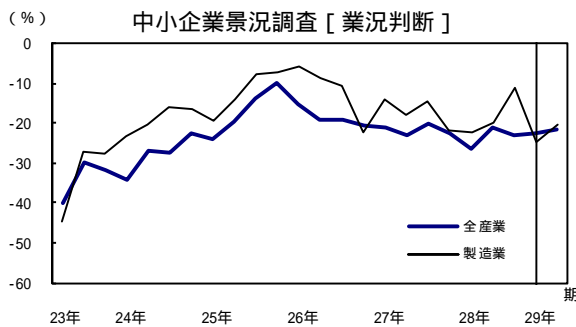
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年3月は予測、26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

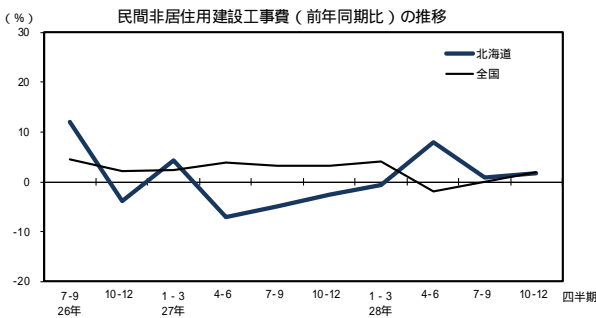


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「公共工事の受注が堅調に推移しており、民間建築も大型物件の受注が確保できている(建設業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

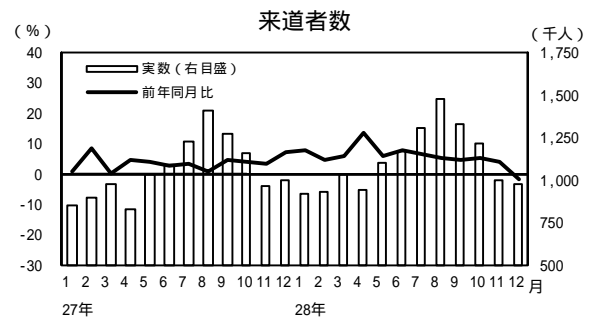
	27年度実績	28年度計画
全産業	7.7	17.5(2.5)
製造業	5.9	12.2(5.0)
非製造業	8.4	19.4(1.4)

(備考) 1.()は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2. リース会計対応ベース。

(5) 観光は増加している。

来道者数は、12月は天候要因もあり減少したが、今期は新幹線効果等により増加した。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比1.1%減、11月は同2.0%増、12月は同4.9%減となった。

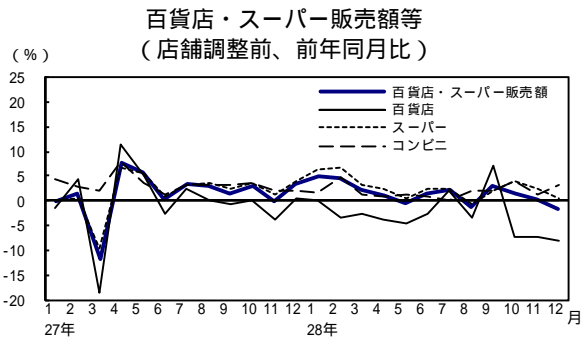
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10~12月いずれの月においても、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他のすべての品目で前年を下回った。

スーパーは、主に飲食料品が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「年明けからの来客数が思っていたほど増えていない。前年並みにとどまっている (乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が増加した。

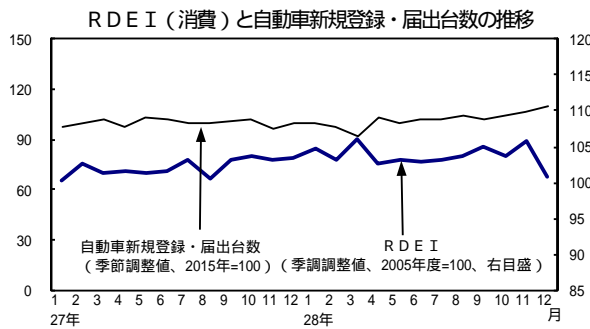


	28年10-12月	28年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.5	1.1	2.0	4.8
百貨店・スーパー(*2)	0.0	1.6	0.4	1.5
百貨店(*2)	7.6	7.2	7.4	7.9
スーパー(*2)	2.2	4.1	2.6	0.5
コンビニ(*2)	2.8	3.9	1.1	3.3
乗用車(*3)	7.3	1.3	11.4	9.7
(季節調整値)(*3)	3.8	2.5	1.8	3.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

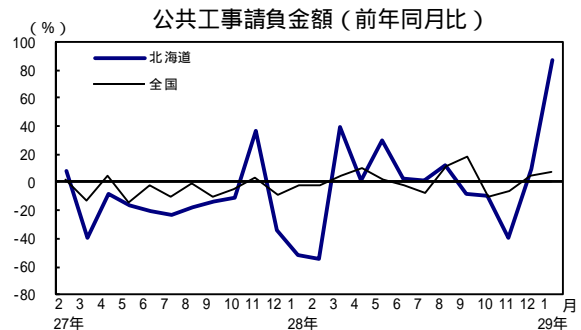
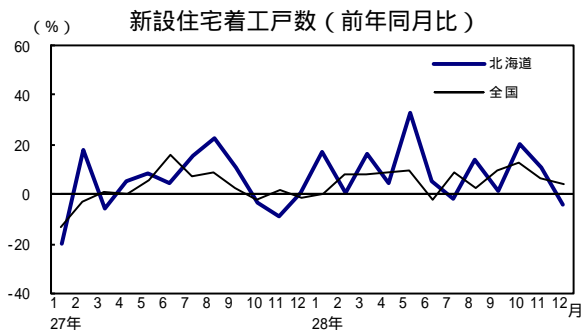
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

貸家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度を上回っている。

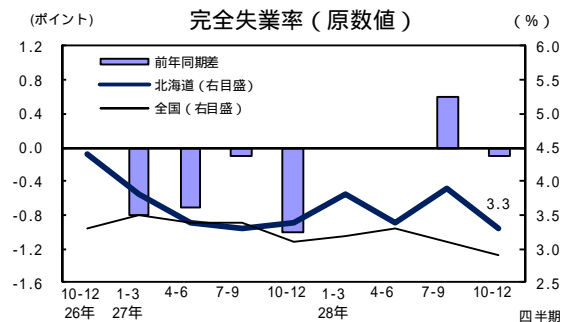
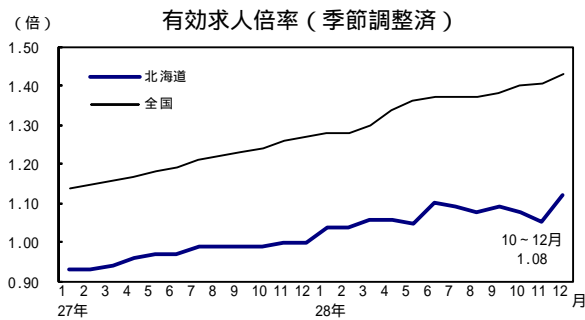


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [雇用関連 (現状)]

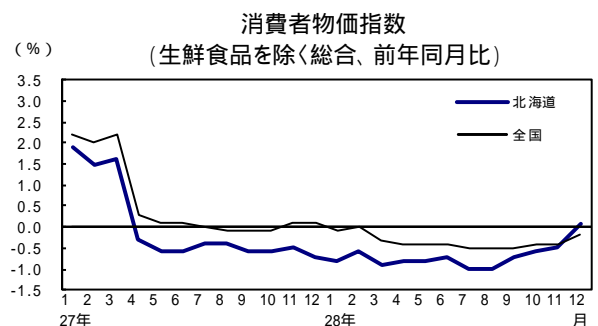
「一部のサービス業で新規求人数の減少傾向がうかがえるものの、新規求職者数の減少により、これまでと同様の水準の新規求人倍率が維持できている (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	29年1月
倒産件数	68	63	74	63	17
(前年比)	17.1	3.3	3.9	6.8	10.5
負債総額	377	109	76	70	7
(前年比)	54.0	20.3	32.3	55.0	80.6



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・外国人観光客がわずかに減少傾向にあるが、イベント関係での利用やスキー場利用客がやや増加しており、全体としてはあまり変わらない (タクシー運転手)。

<先行き>

・米国を中心に世界の動向がみえづらくなっている。各企業の採用活動も対象が現3年生に移行するが、国内景気をみながら慎重な採用活動を行うことが見込まれるため、就活学生にとって若干厳しいスタートとなる (学校 [大学])。

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

